

# 新年のごあいさつ

～ウェルビーイング社会を目指して～

社会福祉法人 足羽福祉会  
理事長 高村 昌裕



新年明けましておめでとうございます。

昨年は「withコロナ」の社会の流れと現実的対応のギャップに悩まされた1年でした。感染者数が減らない中でも、社会経済活動がほぼ制限なく再開されたことは大事ですが、感染力の強いオミクロン株感染が一旦施設に入ると、クラスターが発生しやすく、医療機関での受入れも難しい中、法人内でもたくさんの方の利用者の方や職員の感染者を出してしまいました。私たちの使命、存在意義とは何かを考え続けた1年でもありました。

今、世界や社会経済活動全体の中で「ウェルビーイング(well-being)」という言葉が広がっています。その背景には、近年の世界情勢で新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵攻、また世界の社会、経済、環境的課題への包括的なSDGsの取り組みが挙げられます。また日本国内でも「働き方改革」推進のもと、経済産業省では多様な働き方や意識改革を進める「ウェルビーイング経営」が促進されています。世界中が混沌の中で、何をもって「幸せ」というのか、何のために私たちは働くのか、また生きるのかという根源的な問いに対して、ウェルビーイングが解決の糸口として語られ取り組まれているのです。

実は社会福祉の世界では、随分前から使われている言葉です。一般的に「ウェルフェア(welfare)」が制度やハード面で社会的弱者を支援していく福祉と訳されることに対して、「ウェルビーイング」は個人の尊厳や自己実現が尊重され、心身や社会的に良好な状態、として捉えられてきました。簡単に言えば、福祉サービスにつなげ、安全でかつ安心できる生活が保障される福祉がウェルフェアであり、ウェルフェア充実のもと、一人ひとりが自分らしく、幸せを感じながら生きることが出来る福祉がウェルビーイングです。私たちには、利用される方々の命を守るというウェルフェアとしての福祉を確立した上で、よりよく生きるためウェルビーイングの福祉の向上が求められているのです。

ウェルビーイング社会を目指すには、当法人が掲げる「利用者様と共に」「地域と共に」「職員と共に」「いずれの要素も不可欠で、それぞれの立場に寄り添い、柔軟に、かつ新しい挑戦にも取り組んでいくことが大切だと私は考えます。そのためのキーワードが「ワクワクすること」や「人と人がつながっていくこと」であり、このテーマをもとに2023年度からの第V期中期事業計画を策定中です。

今年も利用者の方、地域の方、職員との笑顔の語らい、ふれあいを大切に邁進してまいります。何卒ご支援ご協力のおかげでよろしくお願いたします。